

第34期営業のご報告

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

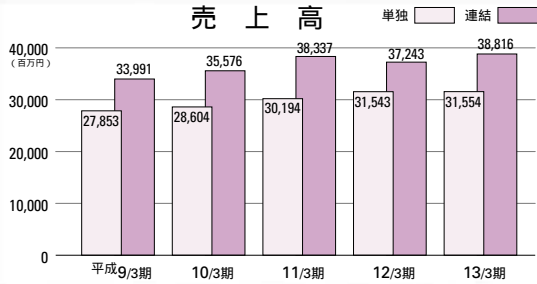
証券コード 6869



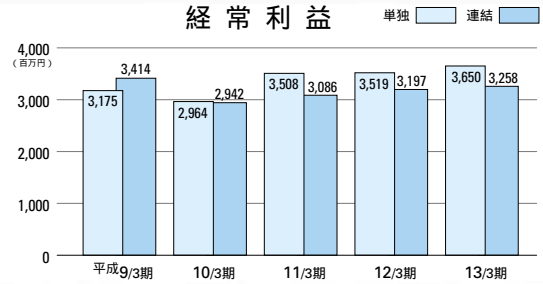
業績の推移

FINANCIAL DATA

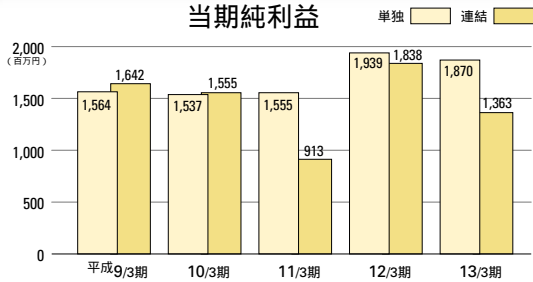
売上高



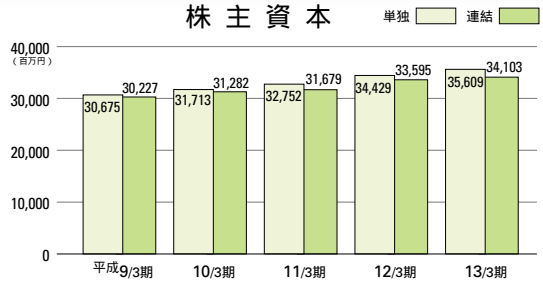
経常利益



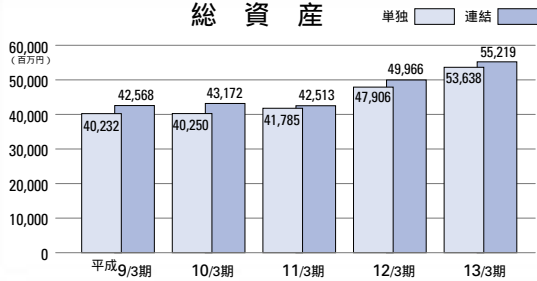
当期純利益



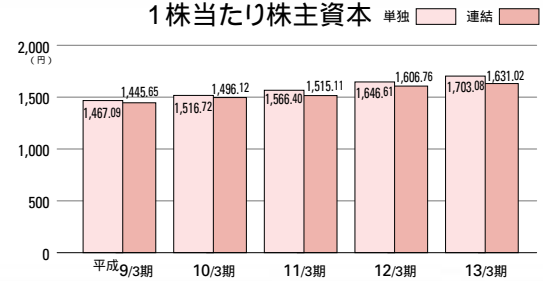
株主資本



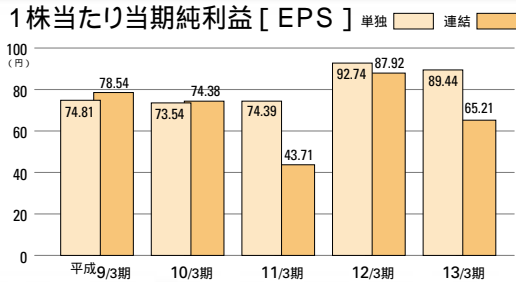
総資産



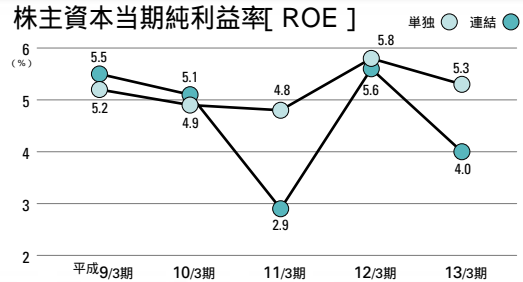
1株当たり株主資本



1株当たり当期純利益 [EPS]



株主資本当期純利益率 [ROE]



TOP INTERVIEW

21世紀、業界フロントランナーとして、 新たな成長への挑戦をスタート。

日頃は、株主の皆様方からのご支援、ご指導をいただき、心から感謝しております。21世紀に入り医療を取り巻く環境は、大きく変わろうとしています。これら変化するニーズを的確にとらえ、新たな価値ある検査システムの確立を通じて、さらに豊かな健康社会づくりを目指してまいります。ここに第34期連結の業績をご報告するとともに、今後の事業戦略について説明させていただきます。



第34期業績と事業展開のご報告

— まず、今期の業績はいかがでしたか。

売上高においては、為替等の影響もあり連結ベースで38,816百万円と前期比約4%の増収となりました。

市場別に見ますと、国内では「多項目自動血球分析装置 XE-2100」をはじめとした血液検査用機器の売上が順調に推移したのに加えて、機器の販売台数の増加に伴い試薬の売上が伸びたほか、ロシュ社をはじめとしたアライアンスによる新製品の導入が売上に貢献しました。

米国市場においては、計画したほど大きな伸びとはなりませんでしたが、今後は、ヘマトロジー分野の販売・サービス業務を移管したロシュ社へのサポートを強化していきます。また、中南米市場は好調な伸びを示しました。欧州市場は、「XE-2100」をはじめとする機器の販売が大幅に伸び、順調に推移しましたが、ユーロ安の影響が大きく売上は微増となりました。

アジア・パシフィック地域では、中国での直販体制の整備が遅れたため、計画に対しては未達となりましたが、アジア・パシフィック市場全体では、前期に比べ約37%増となりました。特に中国では、検査機器および試薬の需要は非常に高いものがあり、今後の成長が期待できると考え、積極的な展開を図っていきます。

連結の経常利益は、2001年に入ってから円安に推移したことによる為替差益の影響もあり、3,258百万円(前年比2%増)となりました。また、連結当期純利益は、新会計制度の導入(金融商品会計、退職給付会計等)の影響もあり、1,363百万円(前年比26%減)となりました。

今後、有望な中国市場に着目するとともに、IT関連のグローバルビジネスを展開

— 今後のシスメックスを取り巻く市場環境の見通しについて、どのようにお考えですか。

まず、わが国を含め北米や欧州市場においては、

医療費の抑制により、当面は大きな伸びは見込めないでしょう。しかし、中長期的に見ると、本格的な高齢化社会の到来やポストゲノムによる新しい検査技術の開発などにより、予防医学に対する需要が高まり検査や診断を含めたヘルスケア市場はさらに成長が期待され、私たちにとって大きなビジネスチャンスになると考えています。一方、アジアや中南米、アフリカなどの地域では、経済成長と医療の拡大政策などにより、検査ニーズが高まり市場の拡大が望めます。なかでも中国は、これから最も重要視される市場といえるでしょう。

— その中国市場に向けての具体的な事業展開についてお聞かせください。

現在、中国における血球計数装置のシェアは業界トップとなっています。そして当期、試薬生産の拠点であるシスメックス済南の増資を行い、100%子会社にしました。さらに上海、香港における現地法人やIT開発拠点である希森美康電脳技術(上海)有限公司の設立、5カ所の販売・サービス拠点の設置によって、より現地のニーズに適応した製品とサービスを提供していきます。

— 医療分野におけるIT関連のビジネスにもグローバルに取り組まれるとお聞きしていますが...

現在、病院の検査室では、高度化、多様化、しかも低コストな検査システムが求められています。このニーズに応えるには、機器、試薬、ITが一体となったトータルなソリューションの提供が必要です。当社は日本を含むアジア、欧州、米州とグローバルベースでITの開発三極体制を確立してきました。ソフトウェア開発の拠点のひとつであるベルギーのシスメックス モリス社が開発した最新のラボラトリーインフォメーションシステムを、欧州だけでなく北米、日本・アジアに供給しグローバルなビジネスを展開していきます。

検体検査分野での世界トップ10、日本を含むアジアNo.1の総合サプライヤーを目指す

— 今回、国際試薬との業務提携を行われましたが、その狙いと今後のメリットをお聞かせください。

この提携はお互いの持つ強みを最大限に活かすために行いました。検査システムに対して医療機関からのトータルなソリューションが求められる昨今、当社の強みである機器とIT、そして、試薬に強みを持つ国際試薬が手を結ぶことにより、品揃えの充実とトータルなソリューションが可能になります。また、国際試薬の製品を私たちの持つ販売・サービスのネットワークを通じて海外で販売する等、両社の強みを融合し、シナジー効果を最大限に発揮していくことで、検体検査分野での世界トップ10、アジアNo.1の総合サプライヤーを目指します。



新たな検査・診断領域へのチャレンジ

— 今後の成長が期待されている、POC検査への取り組みについてお聞かせください。

POC(ポイントオブケア)検査とは、手術室や救急救命室、ベッドサイドなど患者のすぐそばで行う検査のことです。治療・診断を行うためには、検査の迅速性が重要な要素であり、また、トータルなコスト低減につながるため、米国では急速にニーズが高まっており、わが国でも今後、成長が期待される分野です。そのために機器・試薬だけではなく、ITも活用したトータルなソリューションが重要であり、当社はPOC検査のネットワーク化に対応したソフトウェア「POCTWeb」の発売を予定するとともに、自社製品の開発に加えてAVL社やロシュ社からの仕入商品を充実させ、POC製品の品揃えの強化を図っています。

— 今、話題のポストゲノムに関する研究開発についてはいかがですか。

中央研究所では現在、遺伝子診断技術に応用したがんの確定診断、がんのリンパ節転移に関する新しい研究に取り組んでいます。また、経済産業省が推進する産学官共同による“ミネアムプロジェクト”に参画し、ポストゲノムの解明に大きく関わる細胞中のタンパク質機能解析の研究を行っています。いずれも、21世紀における医療の課題である、病気を未然に防ぐ予防医学や確定診断、

さらに患者個人に対する最適治療を実現するテーラード医療の発展に深く関与する研究です。これらの研究開発を通じ、新たなビジネスフィールドを創造するとともに、未来の豊かな健康社会づくりに向けて積極的な展開を図ります。

● ● ●

当社は今後も、医療ニーズに応えた新たな検査・診断技術の開発、よりグローバルなビジネスを展開し、株主や投資家の皆様方のご期待にお応えできるよう努力を重ねてまいります。今後ともより一層のご支援をよろしくお願いいたします。



取締役社長 家次 恒

**国際試薬とのグループパワーをフルに発揮し、
日本を含むアジアNo.1の
総合サプライヤーを目指す。**

Sysmex



IRC



国際試薬の小林社長(右)と調印後握手を交わす家次社長(左)

近年、医療リフォームの進展にともない、医療機関を取り巻く環境は急激に変化しつつあります。わたしたちメーカーに対するニーズも質的な変化が生じ、単に機器や試薬など個々の製品を提供するだけではなく、検査室や病院全体を対象としたトータルなソリューションが求められています。

このような環境の変化に対応するため昨年12月20日、当社は国際試薬株式会社との包括的な業務提携を締結しました。機器とIT、そしてグローバルな事業展開に強みを持つ当社と、試薬に強みを持つ国際試薬がひとつのグループとして協力し、互いのパワーを最大限に発揮することで、日本を含むアジアでNo.1の総合サプライヤーを目指します。

業務提携の概要

今回の提携は、研究開発から、生産・販売・サービスまで、トータルにお互いの強みを活かし、グループとしての総合力の強化を図ったものとなっています。3月27日に合意した提携内容を以下にご紹介します。なお、4月から具体的な業務提携を順次推進しています。

国内販売に関して

国際試薬の生化学・便潜血検査商品などを当社へ供給し、当社の血液凝固・免疫血清検査商品などを国際試薬に供給します。

これにより、検体検査分野の主要項目をほぼカバーすることが可能になり、ITを含めたより充実したトータルソリューションが可能となります。

国際試薬のサービス機能を当社に統合し、活動効率を向上させるとともに、グループとしての顧客へのサービス・サポート力を強化します。(2001年9月1日より)

海外販売に関して

国際試薬の海外販売機能を当社に統合し、当社の有するグローバルな販売網を活用した総合提案を推進することにより、特にアジアを主体とした海外市場でのシェア拡大を図ります。

生産に関して

大量生産に適した自動化設備を有する当社と、多品種少量生産のノウハウを有する国際試薬の特性を活かした役割分担を推進し、製造原価の低減と品質の向上を図ります。

国際試薬の検査試薬を当社の中国生産子会社で生産し、中国をはじめとするアジアに販売していく予定です。

この提携にあたり、国際試薬の発行済株式数の33.3%を当社が取得し、国際試薬の筆頭株主となりました。2001年3月期決算より国際試薬は当社の持分法適用会社となっています。

研究・開発に関して

グループとしての商品政策を策定するとともに、研究開発・商品開発の共同プロジェクトを順次設置し、新規技術の獲得と開発を行い、グループ内での品揃えの充実を図ります。

国際試薬株式会社 International Reagents Corporation (証券コード 4545)

事業内容：臨床検査用試薬、臨床検査機器の開発、製造及び販売

設立年月日：1969年12月16日

資本金：26億5,000万円

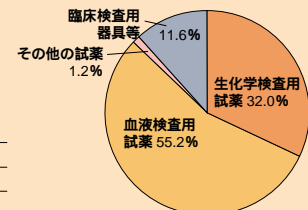
社員数：316名(2001年3月31日現在)

主な事業所：本社 神戸市中央区浜辺通2丁目1番30号

工場 神戸市西区高塚台4丁目3番2号

研究開発センター 神戸市西区室谷1丁目1番2号

営業所 札幌、仙台、大宮、東京、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡



売上高 10,430百万円

経常利益 494百万円

当期利益 162百万円

(2001年3月期)

2000

- 4 加古川工場がISO14001認証取得
アメリカ・マイアミに「SYSMEX CORPORATION OF AMERICA」の中南米担当オフィスを開設
新製品「シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置」SD-2000 を発売
- 5 オムロン株式会社より血液像検査システムの事業を譲受
フランスにIT事業基盤の強化を図る新拠点「SYSMEX FRANCE」を設立
- 6 スtockオプション(新株引受権)制度を導入
欧米に向けて粒子計測装置の市場導入を開始
アメリカに研究開発分室を開設
台湾に現地法人「SYSMEX SAN TUNG」を設立
- 8 Delphic社との提携により欧米市場に向けIT商品の供給を開始
中国にソフトウェア開発拠点「希森美康電腦技術(上海)有限公司」を設立
新製品「血液検査システム」XE-AlphaN を発売



- 10 シンガポールに試薬生産工場を設立
「血液学セミナーCD-ROM」を発売
タイ・シンガポールで「血液学セミナー」を開催
- 11 中国で「血液学セミナー」を開催
国家推進の「ミレニアムプロジェクト」に参画

- 12 完全自動化の「梅毒血清検査試薬」ランリームSTS を発売
GEキャピタルリーシング株式会社とファイナンス提携
健康をテーマとしたホームページサイト「げんき・ねっと」を開設
国際試薬株式会社と包括的な業務提携を締結

- 1 中国試薬生産子会社「済南希森美康医用電子有限公司」の出資比率を100%に変更、増資
栄研化学株式会社とがんの遺伝子検査に関する技術提携に合意

- 2 欧州IT開発の拠点「SYSMEX MOLIS」を拡充
ロシュ社の尿検査紙 メディテープ シリーズを発売
- 3 資材調達業務にWeb-EDIを導入

- ベナン共和国にアフリカサービスセンターを開設
加古川工場の増改築工事に着手
国際試薬株式会社と業務提携基本契約に合意
小野工場および関連会社2社がISO14001認証取得



P16

P4

P8

P8

P4

梅毒血清セット検査の自動化を実現。梅毒脂質抗体検査用試薬 ランリーム STS

性感染症の中でも重篤な疾患のひとつである梅毒。この検査の自動化を可能にした梅毒血清検査試薬です。当社免疫凝集測定装置 PAMIA シリーズの専用試薬で、約15分という短時間で自動測定ができます。今後ますます重要となる感染症防止対策として、さらに ランリーム試薬シリーズ の感染症項目の充実を図ります。



小野工場と関連会社2社が、環境マネジメントの国際規格ISO14001の認証を取得。

当社は豊かな健康社会づくりを担う企業として、環境保全への取り組みを経営の重要課題のひとつと位置づけています。今回は試薬生産の主力工場である小野工場、ならびにシスメックス物流株式会社、メディカ株式会社がISO14001の認証を取得。これにより環境ISOの取得事業所は、グループ全体で5カ所となりました。2001年度中には、R&D拠点であるテクノセンターおよび本社での取得を目指しています。

アジア地域の血液学・臨床検査学の向上に貢献する、シスメックス海外学術セミナーがますます充実。

今期は中国・上海、シンガポール、タイにおいて、血液学・臨床検査学などの先生方をお招きしてセミナーを開催。回を重ねるごとに内容も充実し、多方面の関係者から好評をいただいています。2001年度はマレーシア、フィリピン、インドおよび中国各地で地域医療の向上に貢献すべく、学術セミナーを行う予定です。



アフリカ市場に密着し、迅速なサポート体制を確立する「シスメックスアフリカサービスセンター」を開設。

将来のアフリカ市場における事業拡大を見込んで、ベナン共和国コトヌー市にサービスセンターを開設。アフリカ中西部地域をカバーし、より迅速に地域に密着した技術的サポートを行います。現地でのサービスセンターの設立は、日系民間医療機器メーカーとしては初めてとなります。また、現地技術者の育成や支援も行い、医療水準の向上を図る国際貢献活動としての役割も担っています。



栄研化学とがんの遺伝子検査に関する技術提携に合意。

当社は栄研化学株式会社が開発した遺伝子増幅法(LAMP法)の技術を活用し、がんの転移細胞検出のための遺伝子検査システム(装置および試薬)を当社が全世界で開発、製造および販売を行うことに、1月30日、合意しました。

がんにおいては、転移予防への医療ニーズが高く、より簡単に迅速、確実な検査が求められています。そこで、がん転移の検出において、他の遺伝子検査法と比べ迅速性と高い特異性を有する遺伝子増幅法であるLAMP法が有用であることに着目し、今回の合意に至りました。がんの確定診断に遺伝子検査技術を応用しようとするのは、これまでにない全く新しい技術開発です。

当社では、中央研究所を中心として病理学的検査への取り組みを強化し、光学顕微鏡によらない新しい技術を用いた確定診断方法の確立を目指しており、特にがんに焦点を当てた研究を進めています。

21世紀の最新鋭付加価値工場を目指し、加古川工場の増改築に着手。

国内外における機器の需要増加に対応するため、機器生産の主力工場である加古川工場の大幅な増改築に着手しました。当工場は1973年に操業を開始し、現在は徹底した品質管理体制のもと、信頼性の高い臨床検査機器を世界125カ国以上に供給しています。

臨床検査分野は世界的に今後成長が見込める市場で、グローバルに事業展開する当社にとって高度な機器生産施設を確保することは、売上拡大に対応するための重要な課題です。今回の増改築により、需要増にともなう重要部品の内製機能を強化するとともに、老朽化した主力工場の刷新を図ることができます。機器の生産能力が倍増することにより、さらに積極的なグローバル展開が可能になります。

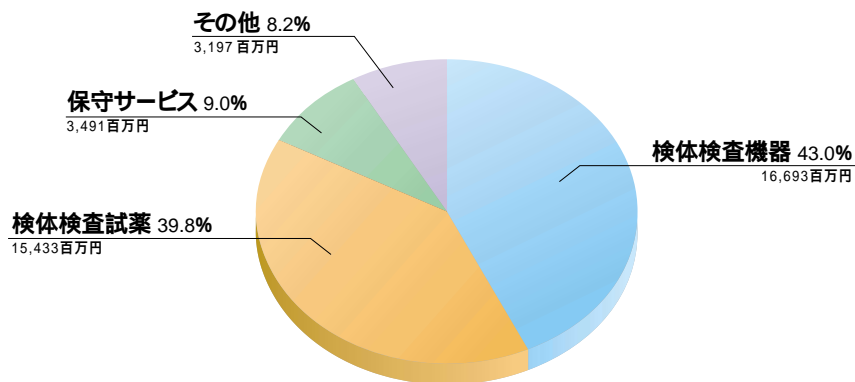




| 会社名 | 所在地 | 主な事業 |
|--|--------|--|
| メディカ株式会社 | 日本 | ディスプレイ製品の製造 / 検体検査機器の重要ユニットの組立 |
| トーアメディカル株式会社 | 日本 | 検体検査機器及び事務機器等のリース |
| シスメックス物流株式会社 | 日本 | 検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送 |
| 株式会社アール・エー・システムズ* | 日本 | 産業用計測・検査装置の開発、製造及び販売 |
| 国際試薬株式会社* | 日本 | 臨床検査用試薬、臨床検査機器の開発、製造及び販売 |
| ① SYSMEX CORPORATION OF AMERICA | 米国 | 検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート |
| ② SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC. | 米国 | 検体検査試薬の製造及び販売 |
| ③ SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC. | 米国 | 臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売 |
| ④ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. | ブラジル | 検体検査試薬の製造及び販売 |
| ⑤ SYSMEX EUROPE GMBH | ドイツ | 検体検査機器の販売及び代理店サポート / 検体検査試薬の製造及び販売 |
| ⑥ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH | ドイツ | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑦ SYSMEX UK LIMITED | 英国 | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑧ SYSMEX BELGIUM S.A. | ベルギー | SYSMEX MOLIS S.A.の持株会社 |
| ⑨ SYSMEX MOLIS S.A. | ベルギー | 臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売 |
| ⑩ SYSMEX FRANCE S.A.R.L. | フランス | 臨床検査情報システム用ソフトウェアの販売 / 検体検査機器、検体検査試薬の代理店サポート |
| ⑪ 済南希森美康医用電子有限公司 | 中国 | 検体検査試薬の製造及び販売 |
| ⑫ 希森美康香港有限公司 | 中国 | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑬ 希森美康医用電子(上海)有限公司 | 中国 | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑭ 希森美康電腦技術(上海)有限公司 | 中国 | 臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売 |
| ⑮ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD. | シンガポール | 検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート |
| ⑯ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD | マレーシア | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑰ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD. | インド | 検体検査機器、検体検査試薬の製造及び販売 |
| ⑱ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD. | タイ | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑲ MED-ONE CO., LTD.* | タイ | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |
| ⑳ SYSMEX SAN TUNG CO., LTD. | 台湾 | 検体検査機器、検体検査試薬の販売 |

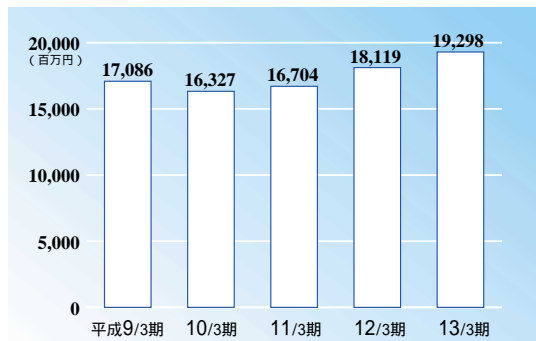
*持分法適用会社

品目別販売実績（連結）

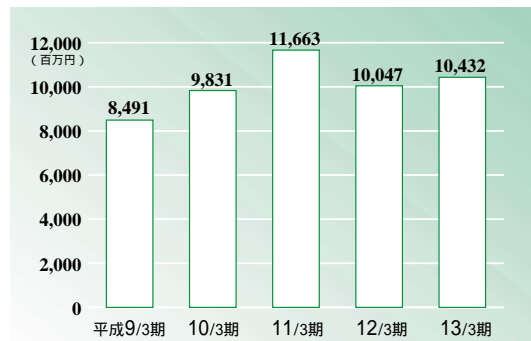


地域別売上高（連結）

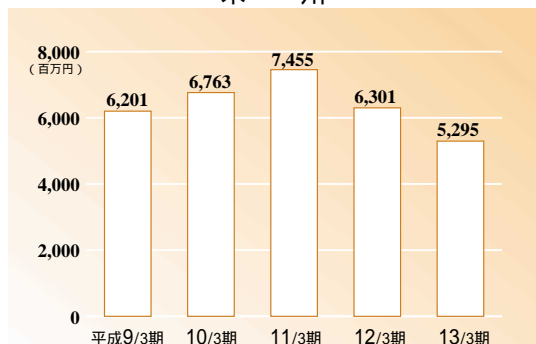
国内



欧州



米州



アジア・パシフィック



損益計算書

| 科目 | (単位:百万円) | | | |
|----------------------|-------------------------------|--------|-------------------------------|--------|
| | 当期 平成12年4月1日から平成13年3月31日まで | | 前期 平成11年4月1日から平成12年3月31日まで | |
| | 連結 | 単独 | 連結 | 単独 |
| 売上高 | 38,816 | 31,554 | 37,243 | 31,543 |
| 売上原価 | 16,302 | 13,614 | 15,406 | 13,900 |
| 売上総利益 | 22,513 | 17,940 | 21,837 | 17,643 |
| 販売費及び一般管理費 | 19,538 | 15,095 | 18,219 | 14,195 |
| 営業利益 | 2,974 | 2,844 | 3,617 | 3,447 |
| 営業外収益 | 655 | 1,010 | 355 | 656 |
| 営業外費用 | 372 | 205 | 774 | 584 |
| 経常利益 | 3,258 | 3,650 | 3,197 | 3,519 |
| 特別利益 | | 56 | 95 | 115 |
| 特別損失 | 307 | 318 | 114 | 145 |
| 税引前当期利益 | 2,950 | 3,387 | 3,178 | 3,489 |
| 法人税・住民税及び事業税 | 1,977 | 1,778 | 1,877 | 1,663 |
| 法人税等調整額 | 370 | 260 | 545 | 112 |
| 少数株主利益(控除) | 20 | | 7 | |
| 当期純利益 | 1,363 | 1,870 | 1,838 | 1,939 |
| 前期繰越利益 | | 707 | | 586 |
| 過年度税効果調整額 | | | | 266 |
| 税効果会計適用に伴う特別償却準備金取崩高 | | | | 0 |
| 中間配当額 | | 209 | | 209 |
| 利益準備金積立額 | | 20 | | 20 |
| 当期末処分利益 | | 2,347 | | 2,562 |

経常利益(連結)

事業基盤の整備・拡大のための投資を進める一方、原価の低減に加え、2001年1月より為替が円安に推移したことにより、為替差益3億49百万円を計上し、連結経常利益は32億58百万円(前期比2%増)となりました。

売上(連結)

国内、欧州およびアジア・パシフィックの売上が順調に推移しましたが、円高による海外売上高の目減りの影響もあり、連結売上高は388億16百万円(前期比4%増)となりました。

国内:192億98百万円(前期比7%増)
海外:195億18百万円(前期比2%増)

当期純利益(連結)

当期より導入された新会計制度(退職給付、金融商品等)の影響もあり、13億63百万円(前期比26%減)となりました。

貸借対照表(連結)

| 科目 | (単位:百万円) | |
|-----------------------|--------------------|--------------------|
| | 当期 平成13年3月31日現在 | 前期 平成12年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 31,679 | 31,871 |
| 固定資産 | 23,500 | 17,551 |
| 繰延資産 | 39 | 79 |
| 為替換算調整勘定 | | 463 |
| 資産合計 | 55,219 | 49,966 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 10,493 | 10,122 |
| 固定負債 | 10,607 | 6,164 |
| 負債合計 | 21,100 | 16,286 |
| 少数株主持分 | 15 | 84 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 3,384 | 3,384 |
| 資本準備金 | 5,560 | 5,560 |
| 連結剰余金 | 25,480 | 24,650 |
| その他有価証券評価差額金 | 164 | |
| 為替換算調整勘定 | 158 | |
| 自己株式 | 0 | |
| 資本合計 | 34,103 | 33,595 |
| 負債・少数株主持分・資本合計 | 55,219 | 49,966 |

キャッシュフロー(連結)

営業活動によるCFは、税金等調整前当期純利益の減少、棚卸資産の増加ならびに売上債権の増加により、前期に比べ約39億円減少しました。投資活動に使用した資金は、国際試薬株式会社株式取得等により、前期に比べ約55億円増加しました。財務活動によるCFは、長期借入金の増加等により、前期に比べ約7億円増加しました。この結果、現金及び現金同等物は前期に比べ約26億円減少しました。

連結剰余金計算書

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------|
| | 当期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで | 前期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで | |
| 連結剰余金期首残高 | 24,650 | 22,733 | |
| その他剰余金期首残高 | | | |
| 利益準備金期首残高 | | | |
| 過年度税効果調整額 | 24,650 | 541 | 23,275 |
| 連結剰余金増加額 | | | |
| 連結子会社増加による剰余金増加 | | 64 | 64 |
| 連結剰余金減少額 | | | |
| 配当金 | 460 | 460 | |
| 役員賞与 | 73 | 68 | |
| (うち監査役賞与) | (8) | (8) | 528 |
| 当期純利益 | 1,363 | 1,838 | |
| 連結剰余金期末残高 | 25,480 | 24,650 | |

総資産(連結・単独)

総資産は前期に比べ、連結で約52億円、単独で約57億円増加しております。主な要因は、国際試薬の株式33.3%を取得(約50億円)したことによるものです。

キャッシュ・フロー計算書(連結)

| 科目 | (単位:百万円) | |
|------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 当期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで | 前期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,723 | 5,657 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 9,130 | 3,659 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 4,739 | 4,008 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 104 | 187 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | 2,562 | 5,818 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 9,901 | 4,083 |
| ●現金及び現金同等物の期末残高 | 7,338 | 9,901 |

貸借対照表(単独)

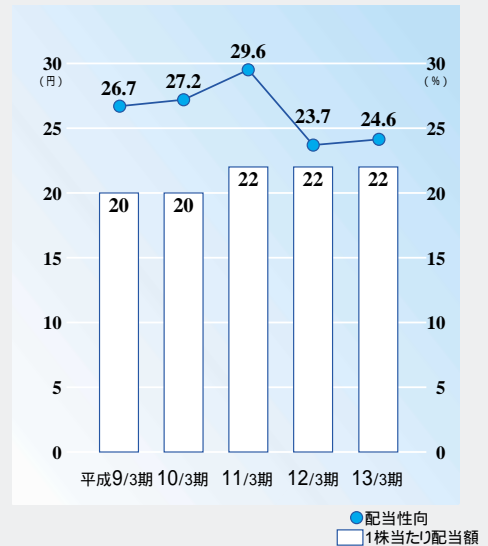
| 科目 | (単位:百万円) | |
|-----------------|--------------------|--------------------|
| | 当期 平成13年3月31日現在 | 前期 平成12年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 27,485 | 27,098 |
| 固定資産 | 26,113 | 20,728 |
| 繰延資産 | 39 | 79 |
| 資産合計 | 53,638 | 47,906 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 7,948 | 7,701 |
| 固定負債 | 10,079 | 5,776 |
| 負債合計 | 18,028 | 13,477 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 3,384 | 3,384 |
| 法定準備金 | 5,918 | 5,864 |
| 剰余金 | 26,463 | 25,179 |
| その他有価証券評価差額金 | 156 | |
| 資本合計 | 35,609 | 34,429 |
| 負債及び資本合計 | 53,638 | 47,906 |

利益処分(単独)

| 科目 | (単位:百万円) | |
|----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 当期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで | 前期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで |
| 当期末処分利益 | 2,347 | 2,562 |
| 特別償却準備金取崩額 | | 1 |
| 計 | 2,347 | 2,564 |
| 利益処分額 | 1,557 | 1,856 |
| 利益準備金 | 32 | 32 |
| 配当金 | 250 | 250 |
| | 1株につき普通配当12円 | 1株につき普通配当10円 記念配当2円 |
| 役員賞与 | 73 | 73 |
| (うち監査役賞与) | (9) | (8) |
| 別途積立金 | 1,200 | 1,500 |
| 次期繰越利益 | 790 | 707 |

(注) 当期は1株につき10円の中間配当を実施いたしました。

配当性向 / 1株当たり配当額



配当政策

【利益配分の基本方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置づけしており、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

【当期の配当決定に当たっての考え方】

当期の配当につきましては、上記の基本方針および当期の業績を勘案のうえ、1株につき22円(うち中間配当金10円)とさせていただきます。

株式の状況

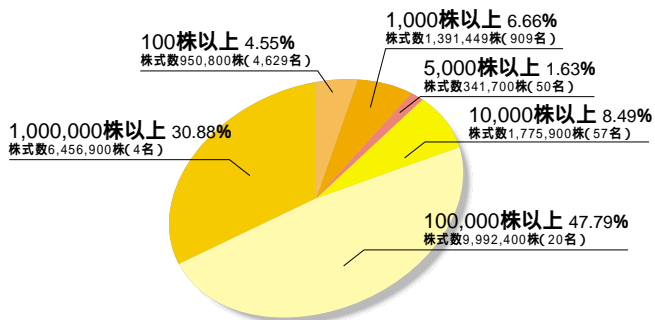
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

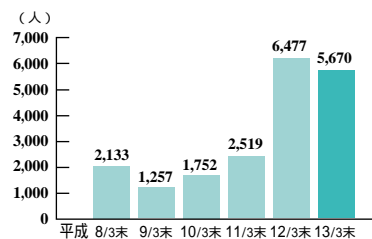
発行済株式総数

20,909,200株

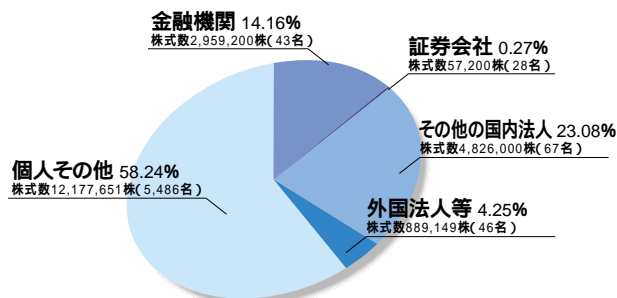
所有数別分布状況



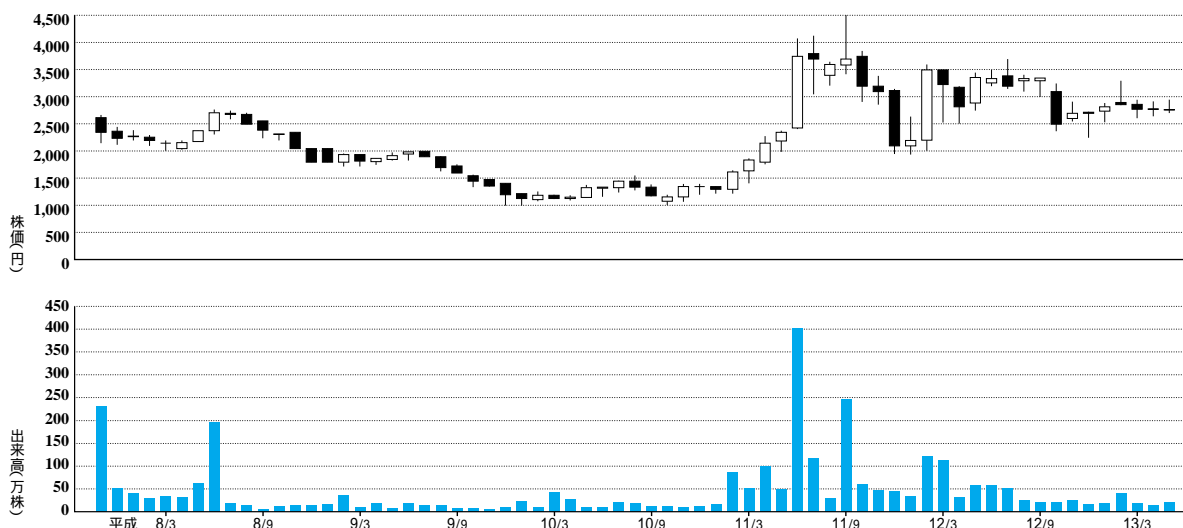
株主数の推移



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



株主メモ

| | | | |
|-----------------------------|------------------------------|-------------|---|
| 決算期日 | 3月31日 | 株式事務 | |
| 定時株主総会 | 6月 | 名義書換代理人 | 〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 |
| 基準日 | | 同事務取扱場所 | 〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 定時株主総会 | 3月31日 | | (郵便物送付先、電話照会先) 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 |
| 利益配当金 | 3月31日 | | 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03) 6391-1900(代表) |
| 中間配当金 | 9月30日 | 同取次所 | 三菱信託銀行株式会社 全国各支店 |
| その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。 | | | |
| 公告掲載新聞 | 日本経済新聞 | | |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部 | お知らせ | 1.住所変更、配当金振込指定・変更、単位未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。 2.配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができますようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。 |
| 証券コード | 6869 | | |
| 1単位の株式の数 | 100株 | | |

会社概要

| | | | |
|---------|---|--------------|---|
| 商号 | シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (98年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更) | | 主な関係会社 メディカ株式会社 トーアメディカル株式会社 シスメックス物流株式会社 株式会社アール・エー・システムズ 国際試薬株式会社 SYSMEX CORPORATION OF AMERICA(アメリカ) SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル) SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ) SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ) SYSMEX UK LIMITED(イギリス) SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー) SYSMEX MOLIS S.A.(ベルギー) SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス) 済南希森美康医用電子有限公司(中国) 希森美康香港有限公司(中国) 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国) 希森美康電脳技術(上海)有限公司(中国) SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール) SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD(マレーシア) SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド) SYSMEX (THAILAND) CO.,LTD.(タイ) MED-ONE CO.,LTD.(タイ) SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾) |
| 設立年月日 | 昭和43年2月20日 | | |
| 資本金 | 33億8490万円 | | |
| 従業員数 | 996名 嘱託およびパートタイマー208名は含んでおりません。 | | |
| 主な事業の内容 | 臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入 | | |
| 主な事業所 | | | |
| 本社 | 〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524 | | |
| テクノセンター | 仙台支店 | 営業所 | |
| 加古川工場 | 東京支店 | 札幌、盛岡、大宮、千葉、 | |
| 小野工場 | 名古屋支店 | 横浜、新潟、金沢、静岡、 | |
| | 大阪支店 | 京都、神戸、広島、高松、 | |
| | 福岡支店 | 鹿児島 | |

役員のご紹介

| | | | |
|--------------------------|--------------|--------------|----------------|
| 取締役社長 (代表取締役) ...家次 恒 | 取締役 ...中嶋 国雄 | 取締役 ...大東 重則 | 常勤監査役 ...天野 好勝 |
| 専務取締役 ...雪本 賢一 | 取締役 ...日置 栄一 | 取締役 ...山本 博 | 常勤監査役 ...植益 純隆 |
| 常務取締役 ...岡田 徳弘 | 取締役 ...中谷 正 | 取締役 ...中嶋 幸男 | 監査役 ...石田 義典 |
| 常務取締役 ...和歌 光雄 | 取締役 ...林 正好 | | |

データは全て平成13年3月31日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は平成13年5月31日現在のデータです。

病気の早期発見・予防をテーマに、ゲノムを活用した新しい診断・検査の研究開発に取り組み、医療のさらなる可能性を追求しています。

遺伝子診断技術の研究開発により、医療環境の変化に対応した、新たな検査市場の創造にチャレンジしています。

21世紀を迎え医療の枠組みが変わろうとしている現在、世界的に求められる大きな課題は、「医療の質」「医療の効率化」を同時に満足させることです。この実現には、遺伝子機能の解明が進むにつれて著しい進展を遂げている生命科学が、重要な役割を果たすことになります。このような状況の中で、ゲノムを活用した病気の早期発見、予防をテーマとした新たな技術開発は、変化する医療ニーズに対応するとともに、大きなビジネスチャンスとなる可能性を秘めています。

● 現在、“遺伝子”の解明ってどこまで進んでいるの？

人間には約60兆個の細胞があり、これらの細胞から眼や心臓などが形成されています。その細胞ひとつひとつの中には23対の染色体があります。その染色体はらせん状のDNA(デオキシ・リボ核酸)という化学物質からなり、A(アデニン)、T(チミン)、G(グアニン)、C(シトシン)という物質によってつなげられています。この4つの物質が数千から1万個集まったものが“遺伝子”で、この総称を“ゲノム”と呼んでいます。

現在、ゲノムの解析はほぼ完了したといえます。しかし、眼や心臓の大きさや形を決めるために、どの遺伝子がどのように働いているのかはまだに分かっていません。この機能を調べるのが次の段階である“ポストゲノム”の研究で、今後、生命の謎を解き明かす重要なキーワードとなっているのです。



遺伝子機能の解明によってこれからの医療はどうか変わるの？

遺伝子の機能が明らかになると、病気の状態を遺伝子レベルで解析することができます。これによって、病気の原因となる遺伝子が特定でき、自分がどのような病気にかかる可能性があるのかを調べる「リスク診断」が可能になります。これは、病気の「早期発見」「再発防止」をより確実にし、予防医学の進展に大きく寄与することでしょう。さらには、個人個人に最適な治療を施す「テーラーメイド医療」へと医療の質は向上し、効率化もより進展すると考えられます。

シスメックス中央研究所では具体的にどのような研究開発を進めているの？

現在、私たちが取り組んでいるポストゲノム研究のテーマのひとつは、「がんの転移細胞の検出のための遺伝子検査システム」の開発です。この新しいシステムには、遺伝子を迅速に増幅する技術が有用であり、このため本年1月に独自の遺伝子増幅法「LAMP法」を持つ栄研化学と技術提携し、遺伝子診断技術に関わる未来を見据えた研究開発を展開しています。(P8トピックス参照)

一方、産学官協同による国家プロジェクトである“ミレニアムプロジェクト”に参画し、遺伝子の機能を明らかにするため、ゲノムと深く関係する「タンパクの機能解析」を行う研究に取り組んでいます。これは、将来に病気が発症する可能性を予測する「リスク診断」のための大きなカギとなる重要な研究です。

21世紀の医療、豊かな健康社会づくりに貢献するため、
遺伝子診断技術を応用した検査・診断技術の
いち早い開発を目指しています。



W

orldwide report

●Barchon

Belgium

シスメックス

海外事業所通信—⑤

ベルギー



世界市場を見据える、 ソフトウェア開発の拠点

SYSMEX MOLIS S.A.



Ms. Claudia Schröder
Responsible Training and Documentation
External and Internal Communication

シスメックスグループのソフトウェア開発拠点である SYSMEX MOLIS S.A.は、ヨーロッパの中心部に位置するベルギーにあります。事業所は、ベルギー内のドイツ語、オランダ語、フランス語圏の境界にあり、従業員は2~3カ国語以上を話すため、毎日さまざまな言語が飛び交っています。

私たちの主な事業内容は、病院の検査室に必要なあらゆる種類の検査データを一元管理するためのラボラトリーインフォメーションシステムと呼ばれるソフトウェアの開発、販売、サポートであり、今ではこの分野を先導する存在となりました。さらに、当社が開発した製品

はヨーロッパのみならず、アメリカや日本でも販売を開始してきます。

ベルギーには美しい風景や見どころがたくさんあります。事業所近郊のリエージュという町には、ミューズ川が流れ美しい古城があり、数多くのカフェやレストランが建ち並び、素晴らしい景観を保っています。また、2月には多くの町や村でカーニバルが開催され、華やかなパレードやパーティが行われます。これらのイベントには当社の社員も参加しています。さらには、毎年6月にユーペンで開かれる“Eupen Music Marathon”という音楽イベントに協賛しています。これは町中にステージが設けられ、ロック、ポップス、フォーク、クラシックなどのバンド演奏が夜通し行われ、大変な盛り上がりを見せます。

これからもベルギーを拠点として、ヨーロッパおよび世界各国にあるネットワークを通じ、検査システムに必要な高度なソフトウェアの供給を積極的に展開します。

